

通し番号	5202
------	------

分類番号	R05-25-13-02
------	--------------

トマトの主要病害虫に対する総合防除体系
[要約] トマト抑制作型において、赤色防虫ネットや、グリセリン酢酸脂肪酸エステル、プロヒドロジャスモンなどの害虫忌避剤、天敵農薬等の各種資材を効果的に組み合わせることで、タバココナジラミに対する薬剤抵抗性発達のリスクを低減しながら、トマト黄化葉巻病の発病株率を慣行防除と同程度に抑制できる。
神奈川県農業技術センター・生産環境部 病害虫研究課 連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

トマト抑制作型において天敵農薬や害虫忌避剤等の防除資材を組み合わせた総合防除法の防除効果を検証することで薬剤抵抗性発達のリスクを低減し、環境に配慮した総合防除体系を確立する。

[成果の内容・特徴]

- 1 0.6mm目合の赤色防虫ネットを天窓および側窓に展張してコナジラミ類等微小害虫の侵入・定着を防ぐ（表1）。
- 2 害虫忌避剤としてグリセリン酢酸脂肪酸エステルを定植前から7日間隔を目途に10月末まで散布する。また、プロヒドロジャスモンを定植前から定植後にかけて5回を目途に散布する（表1, 2）。
- 3 定植時にはジンプロピリダズSLなどの天敵に影響が少ない農薬を施用する（表1, 2）。
- 4 プロヒドロジャスモンの最終散布後は、できるだけ速やかにスワルスキーカブリダニを放飼する（表1, 2）。
- 5 本防除体系により、慣行使用薬剤による防除と同等に、トマト黄化葉巻病の発病を抑制できる（図）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 トマト抑制作型では、トマト黄化葉巻病耐病性品種を使用することが望ましい。
- 2 盛夏期は天敵の放飼を避ける。また、害虫の密度が高まってからの放飼では十分な効果が得られないため、害虫の発生前から発生初期に放飼する。
- 3 ジンプロピリダズSLは2024年6月現在、未登録である。
- 4 天敵の活性が低下する11月以降は慣行使用薬剤による防除に切り替える。
- 5 本資料はトマト抑制作型の試験結果である。

[具 体 的 デ ー タ]

表 1 トマト抑制作型での総合防除体系における使用資材

耕種的防除	トマト品種	TYLCV耐病性品種*
物理的防除	コナジラミ等微小害虫対策	防虫ネット（0.6mm目合 赤色）* 黄色粘着版
化学的防除	コナジラミ類基幹防除剤	グリセリン酢酸脂肪酸エステル
化学的防除	アザミウマ類基幹防除剤 天敵定着促進剤	プロヒドロジャスモン
化学的防除	定植時農薬	ジンプロピリダズSL*
生物的防除	天敵農薬	スワルスキーカブリダニ*

*他の資材で代替できる。
ジンプロピリダズ SL は 2024 年 6 月現在、未登録である。

表 2 トマト抑制作型での総合防除体系における
薬剤処理例

7月下旬	播種 ニテンピラム粒剤 5g/L培土混和
8月上旬	グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤 ×500 プロヒドロジャスモン液剤 ×500
8月中旬	グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤 ×500 プロヒドロジャスモン液剤 ×500 エマメクチン安息香酸塩乳剤 ×2000 グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤 ×500 プロヒドロジャスモン液剤 ×500
8月下旬	定植 ジンプロピリダズSL ×500 50ml/株 グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤 ×500 プロヒドロジャスモン液剤 ×500
9月上旬	グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤 ×500 プロヒドロジャスモン液剤 ×500
9月中旬	グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤 ×500 グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤 ×500 スワルスキーカブリダニ製剤
9月下旬	グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤 ×500
10月上旬	グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤 ×500 グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤 ×500
10月中旬	グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤 ×500
10月下旬	グリセリン酢酸脂肪酸エステル乳剤 ×500
11月以降	慣行使用薬剤による防除

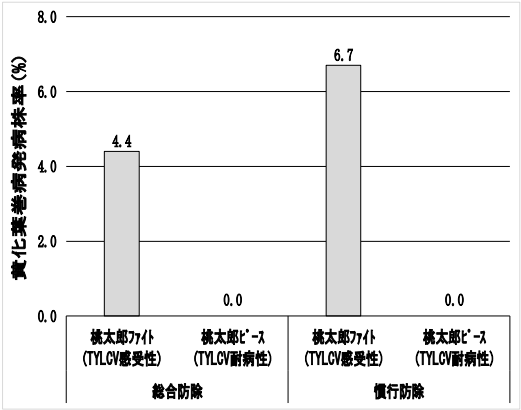


図 総合防除体系を導入したトマト抑制作型での黄化葉巻病 (TYLCV) 発病率 (2023 年度試験結果)

[資 料 名] 令和 3 ～ 5 年度試験研究成績書
[研究課題名] 診断・同定及び防除技術の開発
[研究 期 間] 2018(平成30)年度～2023(令和 5)年度
[研究者担当名] 大谷友洋